

週間感染症情報

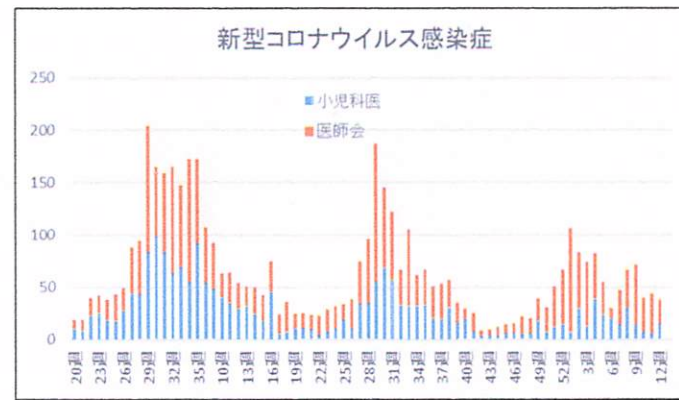
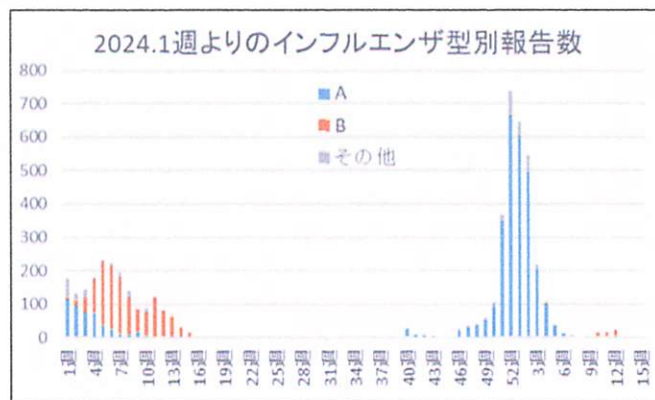
2025年9週～12週 2025年2月24日より2025年3月23日まで

9週 10週 11週 12週

麻疹				
風疹				
水痘(みずぼうそう)				
ムンプス(おたふくかぜ)				
百日咳				
溶連菌感染症	2	10	3	6
手足口病			2	1
ヘルパンギーナ				
伝染性紅斑	1		3	
感染性胃腸炎	119	145	93	74
ノロウイルス(再掲)			1	
便アデノウイルス(再掲)				
突発性発疹				5
伝染性膿痂疹(とびひ)	1		2	
ヘルペス性口内炎				
アデノウイルス感染症	1	1	1	3
RSウイルス感染症		4	7	4
マイコプラズマ感染症	3	4	5	2
ヒトメタニューモウイルス	10	5	8	4
インフルエンザ	4	13	14	21
インフルエンザ A	2	3	2	7
インフルエンザ B	2	9	12	14
新型コロナウイルス感染症	71	40	44	38

遅くなりましたが、2025年9～12週、4週間の報告です。左下のインフルエンザのグラフは、2024年1週からです。12週に、インフルエンザA型7例、B型14例で合計21例と増加していますが、大きな流行にはなっていません。春休みに入りこのまま終息していくと思います。コロナは減少傾向ですが、40例前後となかなかゼロになりません。感染性胃腸炎はピークを越えました。複数回患する症例もあり、数種類のウイルスが流行しているようです。発熱・呼吸器症状の年少児が増えています。全例に検査しているわけではありませんが、RSウイルス感染症ヒトメタニューモウイルス感染症が流行しているようです。小中学生の長引く咳は、マイコプラズマ感染が多いです。発熱のない長引く咳は百日咳も鑑別する必要があります。岡山県では、12週までに73例の報告があります。2024年は年間で19例でした。小中学生が多いようです。2か月になったら五種混合ワクチンを接種しましょう。全国的に麻疹(はしか)の報告が増えています。麻疹は2回のワクチン接種で予防できます。

WHO(世界保健機構)とCDC(米国疾病対策予防センター)の推計によると、2023年の麻疹の症例数は世界で1,030万件となり、2022年から20%増加すると推定されています。2023年に推定10万7500人が亡くなり多くが5歳以下の子供です。1歳になったらすぐ、また年長さんも早めにMRワクチンを接種してください。体調不良の場合は休み、マスクの着用をお願いします。手洗い・換気に努めて下さい。



(感染情報については当院のホームページでもご覧になれます。 <http://miyakenaika.com>)